

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800301
法人名	医療法人 愛愛会
事業所名	グループホーム いしかわ
所在地	四国中央市上分町861番地20
自己評価作成日	平成 22年 7月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1番に、階下に保育所があり交流会を開催し、共生型施設として世代を超えた時間の共有が持っています。地形的に山の切り立った所に施設がある為、静か過ぎる環境の中で、子供の声が響く事は本当にうれしいもので、利用者様は大変癒されています。2番めとして、職員の明るさです。業務は辛い事やきつい事もありますが、地域の方々を支えられながら、いつも明るく笑顔で仕事をしています。訪問者からも笑顔を誉めて頂く事もあります。それが利用者様にも伝播して、毎日楽しく暮らしています。3番目として、この建物の広さと明るさを挙げたいと思います。音楽ボランティアの方が来る時は、他の事業所の利用者も受け入れて、大勢で楽しめています。広くて、ゆったりした空間があって、4方がガラス張りのため、明るく快適な住まいとなっています。歩行練習や車椅子、シルバーカーでの移動にも充分対応出来ます。更に、母体病院との医療連携がとれている事も重要なポイントになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を常に第一に考え、利用者や家族の要望や意見、思いを汲み取り本人のペースで生活してもらえよう支援している。コミュニケーションを大切にしており、職員は親しく利用者とお話をしているが、節度を守ってなれ合いにならないよう配慮されている。病院が母体施設であるため、充実した医療体制は、利用者や家族も信頼を寄せており安心して生活ができる。事業所の内部は広く、各所にいすが置かれ好みの場所で寛ぎながら大きな窓からの景色を眺めることもできる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム いしかわ

(ユニット名) かえで

記入者(管理者)

氏名 大原 かおり

評価完了日 平成22年7月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私達の理念は、1 入居者様一人一人のペースに合わせるケアの提供 2 コミュニケーションを大切にしてい、心穏やかに笑顔で暮らせる環境作り 3 入居者様の意思を尊重して、自立の支援であり、日々実践に繋がられるよう各フロアーに掲げている。また個人の介護感も設定しています。</p> <p>(外部評価) 利用者を常に第一に考え、理念を実践している。コミュニケーションは特に大切にしているので、ホーム内に笑顔が絶えない。職員の個人目標も設定し毎年度末に振り返りを「ISO業務能力適格性評価シート」を用いて行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の盆踊り大会や秋祭りに、呼んで頂く事があるので入居者様の状態に合わせて、少人数ではありますが、積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) ホームの近くには民家がなく日常的なつきあいが困難な立地であるが、地域への働きかけを積極的に行っており、ホームの近くに畑のある地域の方が収穫物を持ってきてくれる等、良好な関係が構築されている。また利用者と共にお遍路さんのお接待を行い、地域に根ざした活動も行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所に民家がほとんど無いため、お遍路さんに気軽に立ち寄ってもらえる場として、お茶の接待や入居者様と触れ合い会話を通じて認知症の人との接点の機会をもって頂いています。 また、核家族が進む中、高齢者と子供たちが、触れ合える時間を共有でき、介護に対しての興味を深くもってもらえるようインターシップの受け入れを行い、将来を期待している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 利用者様の状況や家族とのふれあいや心配事の事などの意見交換や、ヒヤリハットの報告やサービス向上等も隠さず話し合いを持っており、業務に対しての労いなども頂いている。また、昨年度は桜の木の植樹祭と一緒に参加しご協力して下さいました。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に桜の植樹等の行事を絡める等、工夫を凝らしている。多方面の立場の方に参加してもらっており、小学校の校長先生も出席してくれ児童の慰問につながった例もある。会議でも活発な意見交換がされていることも記録で読み取れる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 地域包括支援センターより、認知症高齢者のモデル事業計画を、推進会議の席を借りて説明の機会を設けたり、介護保険の更新時には、窓口へ直接伺い近況報告を行っている。 推進会のメンバーとしても毎回参加し、協力をお願いします。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議への出席はもちろん、市の担当者に相談や報告も気軽にできる関係が構築されている。市のグループホーム協議会にも参加している。また、市の事業も積極的に受け入れ、実施している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中はいつでも出入り出来るようになっている。 夜間は防犯の為、自動ロックされている。 施設内のベランダや風呂場など危険場所に関しては、リスクや事故防止の為施錠を行っております。 身体拘束は行っておりません。 理解を深める為に、研修に参加したり職員会の時に伝達講習し、日々心ざして実践に繋がっています。</p> <p>(外部評価) 玄関やエレベーターは利用者の安全を守るためにセンサーは取り付けられているが施錠されておらず、自由に出入りができる。管理者や職員は研修会に参加したり、勉強会を行う等、日々研鑽しながら身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何気ない日々の業務の中で、適切でない言葉がでた時は、管理者が個人的に注意をしています。定期的に研修にも参加し伝達講習も行っており、施設内での虐待は行っていません。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 人権擁護の委員方と、施設側との食事・交流会を行い勉強する機会を持ちました。四国中央市全域の方がおられ、施設の状況を知って頂く良い交流が出来たと思います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の前には必ず施設に来所頂き、施設見学や施設の形態様式や病状管理など家族の心配等を聴取し説明しています。まず1日～3日程、体験入所という方法を取っており、納得した上で契約させて頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的にご家族様に対して、満足度調査を行っており、介護サービスに活かせるよう参考になっております。 月1回高齢介護課より、ふれあい相談員さんが来てくださり、現在の状況等を見て下さったり、入居者様や家族様からの生の声も聞いて頂いております。 (外部評価) 家族が面会に来た時等に意見や要望を聞いたり、定期的にアンケートを実施し、直接言いづらいことを書いてもらったりしている。出された意見や要望は些細なことでも職員会で議題にし、みんなで話し合って改善している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会の時に全体の意見を聞き、日々の業務で簡潔に明確に業務が出来るように、業務改善シートの作成を行っています。よりよいサービスが出来るように改善し、又時部署の問題事項に関しては、在宅部門の会議や法人内の管理者会議でも取り上げており、業務に反映させているとおもいます。</p> <p>(外部評価) 職員会で、職員は自由に意見が出すことができ、管理者もしっかり受け止めている。職員から出された意見は、必要に応じて管理者が出席する法人内の管理者会議に出すこともある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 定期的に、業務能力適正評価シートで自己評価してもらったり、個々の不満を開けるように、個人面談もおこなっています。 各種委員会の会議の出席や、各資格取得・研修の参加には手当を支給しています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) GH連絡協議会の研修や法人内の勉強会には積極的に参加し、サービスの質の向上に励んでいる。 施設内では、月1回の職員会に職員全体が集まれるので勉強会を開催している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 四国中央市のGHの管理者と定期的に近況報告や情報交換を行う機会を作っており、今年度より市のGH協議会を立ち上げました。 GHだけでなく、通所系や特養施設の体験も心みしました。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居申し込みを受けてからの待機時期の段階から、半年に1度は自宅に管理者が電話し、家族やサービス事業所に現在の状況等を確認します。可能であれば、今利用しているサービス施設に出向いたり、交流の場があれば会話する事もあります。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込みを受けてからの待機時期の段階から、半年に1度は、自宅に管理者が電話しています。その時に家族から再度、入居の待機状況や入居の意思の確認を伺いすると共に、家族の不満や介護負担を聴取し関係が継続できるようにしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族はもちろんの事、ケアマネやMSW・他事業所との情報交換を行い、その背景にある問題を見極め、サービス利用に努るようにしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 同じ主婦の先輩・女性として嫁姑の様な存在で居られるように、洗濯や調理など、普段の家事や子育ての悩みなど聴取し、毎日の会話の中で関わりやすい関係作りを心がけています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族との関係には、どうしても勝てません。面会の制限を行なうことなく、いつでも来所して頂き、近況の報告や一緒に過ごせる時間を共有する機会をもっています。又、遠方の親類の方には、等施設に気軽に泊まれるよう準備しております。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 担当のケアマネの方や、利用していた通所の担当者も時々施設に訪問してくれる時があり、会話を楽しまれる事もあります。以前住んでいた地域の民生員さんや近所の方の訪問があり会話やお茶の時間が持っています。 (外部評価) 隣接する同系列の施設にある六地藏にお参りに行ったり、その施設の主催で開催される盆踊りや、ケアハウスのお茶会に参加している。また、月1回同じ建物内にある託児所に行き、子どもとふれあい楽しい時間を過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 特に新規で利用してきた方との関係づくりは難しいため、本人が関心ある事を聴取したり見出したり、一緒に出来る簡単な体操や歌など、レクリエーションに参加しやすいよう配慮しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 近隣施設に入居した場合は、面会に出向く時もある。家族にまでは、なかなかお会いできないのが現状です。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各フロアで月1回カンファレンスを行っており、個々の対して検討し合っている。 毎日の関わりの中で、ふと本人の本音を聞きだせる事もあったり、何気ない仕草から意向等の把握に努力しています。 (外部評価) 利用者のしたいことや、思いを利用者本人や家族から聞き取りをしてプロフィールを作成している。状況や体調に応じて可能な限り、利用者の思いに沿った生活を本人のペースでもらえるよう、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんには、センター方式を参考に、馴染みの暮らしについて聞いたり、ケアマネさんや、利用していたサービス担当者から聞き取りを行い把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 行動の決定主体は、本人にある。 個々に違う生活のスタイルを重視し、残存能力を見極めながら支援している。 不穩の強い方は、隣のフロアにて過ごさせてもらったり家族に訪問して頂いたりする事もあります。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式を取り入れており、家族との情報交換に基づきフロア全員で、毎月モニタリングを施行しています。 利用者本位のケアプランを作成できるように、フロア全員でアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、ケアに取り組んでいます。 (外部評価) 月1回開催している職員会で介護計画の作成やモニタリングを行っている。担当が1人で作るのではなくみんなで作るようにしている。利用者や家族の思いも反映できるよう面会時に聞き取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の様子は、処遇用紙に記載し情報を共有している。 フロア会では、それを基に評価し計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 面会時間の制限をせず、いつでも家族と会える環境にしている。 家族が忙しい時は、協力病院の受診は職員が付き添い普段聞き取れない情報が聴取できたりします。 気分転換に利用者の状態を見ながら、外出や買い物に出かけたりしています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月2回、音楽療法を行ってくれているボランティアの方が来てくれています。 同敷地内に併設されている保育所との交流会を行う等、生きがいのある支援を継続しております。 近所の山へ、栗拾いや笹の子堀りが出来るよう地域の方には、お世話になっています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的に母体病院であるが、歯科・眼科・耳鼻科等は 入居前の病院を本人や家族に選んでもらっており、場 合によっては、家族にも受診の協力をお願いする事も ある。 (外部評価) 母体病院が地域の中核的な病院であり、ホームを利用 する前から受診していた利用者が多い。病院受診は職 員が行うが、家族にも状況に応じて関わってもらうよ うにしている。歯科等の往診もあり、訪問看護との医 療連携も確立されており、適切な医療が受けられるよ うになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療連携にて、訪問看護が週5日訪問してくれていま す。急変時には、緊急時のマニュアルにしたがって連 絡体制が整っている。個々の病状に関しては、施設内 に准看護師がおり、健康管理・服薬管理の援助を行っ ている。病院とは、情報交換を行っているため、主治 医と連絡が密に取れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に、本人の情報提供を行い施設での状況を詳しく 伝えられるようにしています。 可能な限り、お見舞いして、その都度状態を把握し退 院に向けて、主治医や看護師と相談しています。ま た、退院後の生活に向けてのカンファレンスも行っ ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 施設の受け入れが可能であり、家族も希望している。 職員も全員で理解している。 重度化・終末期に関しては、随時、家族に説明してい る。 (外部評価) 母体が病院であるため、医療的な支援体制が整っており 利用者や家族も安心できる。看取りの指針も作成し ホームとしてできる事、できない事を家族にも事前に 伝えて状況に応じて話し合いを行っている。	利用者の高齢化が進み介護度も重度化しているため、 今後急変する可能性があることを考慮し、職員に対す る研修を今以上に濃密にし、利用者や家族が安心、安 楽に過ごせるよう対応を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 高齢者介護『緊急時対応マニュアル』を購入して、全職員が知識を学んでいる。 職員全員が緊急時の心肺蘇生やAEDの研修に参加し、一般救急研修を習得している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は昼間と夜間を想定し、年に2回実施しています。消防隊の方から、災害時の避難について指導の機会を持っています。 運営推進会議の委員の方の紹介で、地区の消防団にも施設を見学してもらいました。 災害時には協力して頂く様になっており、備蓄の準備もしています。 (外部評価) 年2回、運営推進会議のメンバーの協力を得ながら避難訓練を実施している。地区の消防団にも事業所内を見てもらったり、訓練の時には実際に放水してもらったりと協力体制が整っている。訓練後には反省会をし次の訓練につながるよう取り組んでいる。	実際の災害の時にはどのような状態の利用者も避難しなくてはならないので、体調不良の利用者の代わりを職員がする等の工夫を凝らし、今以上に利用者の生命を守る訓練を続けて欲しい。また、職員に迅速かつ的確に緊急連絡が行き渡るよう連絡網を使用した訓練を行い、さらに万全の態勢を構築することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導時は、その人に合った誘導や声掛けやを心がけ、もし失敗してもさりげなく居室に誘導し、尊厳を損なわないように徹底している。 (外部評価) 利用者の呼び方については事前に利用者や家族に確認を行っている。職員は親しく利用者とは話をしているが、節度を守ってなれ合いにならないよう配慮されている。同性介護を実施しており、特に入浴や排泄については細心の注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 水分補給やお茶時間に飲み物の好みを聞いたり外出の際には、メニューの選択が出来るよう自己決定できる機会を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活ペースに合わせて、食事や排泄、日常の生活は職員が先に察知しその人らしく生活できるようさりげなく支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ボランティアや人との交流がある時には、入居者様の化粧や服装のおしゃれにも気を付けている。本人が以前利用していた、美容院にお連れしたり、好みの衣服を季節毎に買いの機会を作っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備が可能な方に食事の盛り付けや配膳なども職員と共に行っている。食器洗いも協力してもらえるようにしている。 おやつやお誕生日には、好きなお菓子や、ケーキをトッピングするなど楽しみを持ってるようにしている。 (外部評価) 母体病院の栄養士が栄養管理をしており、栄養バランスがとれている。水分補給の意味も含め、食事には必ず汁物を付けるようにしている。職員と利用者が協働で準備や後片付けを行っている。食事中、職員は介助の必要な利用者の横に座り、会話を楽しみながらさりげなく介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士さんが作成した献立が週1回届いており、高齢者向けにアレンジしたり、職員と利用者が相談し一緒に食事作りが行えている。 水分補給は、本人の好きな希望に沿い2時間おきに補給してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事の前には、カテキンによる殺菌作用が出来るように緑茶でうがいを行っている。 自力で出来ない方には、その人のペースに合わせて職員が付き添い義歯の洗浄・歯ブラシやコップ等の消毒も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、何気ない声掛けにて誘導している。「排泄チェック表」にて本人の排泄状況を職員が共有できている。	
			(外部評価) 必要な利用者に対しては、排泄量と共に食事の摂取量も合わせてチェックし、総合的に支援を行っている。また、トイレ誘導についても他の利用者に悟られないようにさりげなく声かけがされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の有無で、緊急事態に繋がる事も職員は理解できている。食材の工夫や水分摂取の把握、便秘防止体操や腹部のマッサージを取り入れている。GH特製のヨーグルトを食事に加えたり、頑固な便秘の場合は、センナや緩下剤に頼る事もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 自宅にいた頃に使用していた、入浴剤を家族から預かって楽しみに入浴されている方もいます。一日毎に入浴を行っていますが、その日の状態に合わせて、入浴可能かどうか決めております。訪問看護にも相談する事もあります。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本としているが、状況や希望に応じて毎日の入浴も可能にしている。入浴の苦手な利用者も声かけをしたり、時間を変えたり工夫をして楽しく入浴してもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない時は、歌謡曲やDVDにてコンサートなどを掛け、会話により眠れない事の不安を解消し支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬剤情報をファイリングし、副作用用法など確認出来るようにしている。食事後の配薬や服用に関しては、リスクが無いように二人の職員でチェックするようにしている。また配薬チェック表にてサインを記載するようにしている。 残薬の確認は管理者が行っています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事作りが得意な方・準備をしてくれるなど、それぞれが役割を持ってきている。 信仰心のある方は、知人からその信仰に関する本などを家族や知人に差し入れしてもらっています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行き付けの美容院などの送迎は職員が行っている。 隣のGHの方と一緒に茶道クラブに参加しお抹茶と和菓子を頂き、作法の指導などボランティアを通じて支援させてもらってます。 季節に応じた植物の観賞なども近くに外出できています。 (外部評価) 少しの時間でも状況を見ながら外に出るように職員は心がけ、同じ建物の1階にある託児所に子どもの様子を見に行ったり、近くのスーパーに買い物に行ったりしている。また、地域の方の竹林で筍取りをさせてもらったり、栗拾いをしたり季節を感じるような外出支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員同行の上、買い物の支援を行っているが、支払いの際は、その都度見守りながら支払いが出来、尊厳を大切に出来るよう支えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方に住んでいる家族には、月2～3回家族から電話を掛けてきてもらい、精神的安定が図れるよう協力をお願いしている。 暑中見舞いや年賀状など職員からの文章に加え、本人からの言葉を一筆添え、お送りしています。 中には、家族と文通している方もいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関の靴の脱ぎ履時には、転倒防止の為に椅子を準備しており安全に配慮している。 玄関ポーチには、植物の観賞や日光浴などの場所となっている。	
			(外部評価) リビングが広く、各所に安定感のあるいすが設置されており好みの場所で寛ぐことができる。窓が大きいので、明るく外の景色も一望できる。随所に手作りの飾りが華やかに飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロア内の真ん中に中庭があり、季節の花・バジル・小鳥箱がありガラスで四方を囲んでいる。その周辺を畳ベンチで囲んでいたりソファを置いたりし、そこに少人数で会話を楽しめる時間が持っています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に使用していた、家具やソファなど馴染みの物を置き、好きな歌手や家族の写真などは精神的安定が図れるよう工夫している。 会話用のお人形を置いたり、部屋の雰囲気作り・インテリアは家族と相談し決めている。	
			(外部評価) 居室も広く、ゆったりとした空間が確保されている。利用者はダンスや仏壇、思い出の品を自由に持ち込み、個性的な居室を職員と共に作り上げている。簡易ベッドを用意しているため、利用者の居室で家族が泊ることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 残存能力を考慮し、起居が容易にし易いようにキッチンテーブルなどの高さなど本人の体系に合った物にしている。入所者は、字が読めるので、トイレや洗面所の場所が矢印や案内板などで夜間でも移動し易いように配慮している。ローカが長いので、途中で休憩しながら移動できるように所々に畳ベンチを設置している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800301
法人名	医療法人 愛愛会
事業所名	グループホーム いしかわ
所在地	四国中央市上分町861番地20
自己評価作成日	平成 22年 7月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1番に、階下に保育所があり交流会を開催し、共生型施設として世代を超えた時間の共有が持っています。地形的に山の切り立った所に施設がある為、静か過ぎる環境の中で、子供の声が響く事は本当にうれしいもので、利用者様は大変癒されています。2番めとして、職員の明るさです。業務は辛い事やきつい事もありますが、地域の方々を支えられながら、いつも明るく笑顔で仕事をしています。訪問者からも笑顔を誉めて頂く事もあります。それが利用者様にも伝播して、毎日楽しく暮らしています。3番目として、この建物の広さと明るさを挙げたいと思います。音楽ボランティアの方が来る時は、他の事業所の利用者も受け入れて、大勢で楽しめています。広くて、ゆったりした空間があって、4方がガラス張りのため、明るく快適な住まいとなっています。歩行練習や車椅子、シルバーカーでの移動にも充分対応出来ます。更に、母体病院との医療連携がとれている事も重要なポイントになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を常に第一に考え、利用者や家族の要望や意見、思いを汲み取り本人のペースで生活してもらえよう支援している。コミュニケーションを大切にしており、職員は親しく利用者とお話をしているが、節度を守ってなれ合いにならないよう配慮されている。病院が母体施設であるため、充実した医療体制は、利用者や家族も信頼を寄せており安心して生活ができる。事業所の内部は広く、各所にいすが置かれ好みの場所で寛ぎながら大きな窓からの景色を眺めることもできる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム いしかわ

(ユニット名) もみじ

記入者(管理者)
氏名 大原 かおり

評価完了日 平成22年7月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私達の理念は、1 入居者様一人一人のペースに合わせるケアの提供 2 コミュニケーションを大切にしてい、心穏やかに笑顔で暮らせる環境作り 3 入居者様の意思を尊重して、自立の支援であり、日々実践に繋がられるよう各フロアーに掲げている。また個人の介護感も設定している。</p> <p>(外部評価) 利用者を常に第一に考え、理念を実践している。コミュニケーションは特に大切にしているので、ホーム内に笑顔が絶えない。職員の個人目標も設定し毎年度末に振り返りを「ISO業務能力適格性評価シート」を用いて行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の盆踊り大会や秋祭りに、呼んで頂く事があるので入居者様の状態に合わせて、少人数ではありますが、積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) ホームの近くには民家がなく日常的なつきあいが困難な立地であるが、地域への働きかけを積極的に行っており、ホームの近くに畑のある地域の方が収穫物を持ってきてくれる等、良好な関係が構築されている。また利用者と共にお遍路さんのお接待を行い、地域に根ざした活動も行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所に民家がほとんど無いため、お遍路さんに気軽に立ち寄ってもらえる場として、お茶の接待や入居者様と触れ合い会話を通じて認知症の人との接点の機会をもって頂いています。 また、核家族が進む中、高齢者と子供たちが、触れ合える時間を共有でき、介護に対しての興味を深くもってもらえるようインターシップの受け入れを行い、将来を期待している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 利用者様の状況や家族とのふれあいや心配事の事などの意見交換や、ヒヤリハットの報告も隠さず話し合いを持っており、業務に対しての労いなども頂いている。 また、昨年度は桜の木の植樹祭と一緒に参加し、ご協力して下さいました。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に桜の植樹等の行事を絡める等、工夫を凝らしている。多方面の立場の方に参加してもらっており、小学校の校長先生も出席してくれ児童の慰問につながった例もある。会議でも活発な意見交換がされていることも記録で読み取れる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 地域包括支援センターより、認知症高齢者のモデル事業計画を、推進会議の席を借りて説明の機会を設けたり、介護保険の更新時には、窓口へ直接伺い近況報告を行っている。 推認会のメンバーとしても毎回参加し、協力をお願いします。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議への出席はもちろん、市の担当者に相談や報告も気軽にできる関係が構築されている。市のグループホーム協議会にも参加している。また、市の事業も積極的に受け入れ、実施している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中はいつでも出入り出来るようになっている。 夜間は防犯の為、自動ロックされている。 施設内のベランダや風呂場など危険場所に関しては、リスクや事故防止の為施錠を行っております。 理解を深める為に、研修に参加したり職員会の時に伝達し日々志し実践に繋げています。</p> <p>(外部評価) 玄関やエレベーターは利用者の安全を守るためにセンサーは取り付けられているが施錠されておらず、自由に入出入りができる。管理者や職員は研修会に参加したり、勉強会を行う等、日々研鑽しながら身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何気ない日々の業務の中で、適切でない言葉が出た時は、管理者が個人的に注意をしています。定期的に研修にも参加し伝達講習も行っております。施設内での、身体的虐待は行っていません。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 人権擁護の委員方と、施設側との食事・交流会を行い勉強する機会を持ちました。四国中央市全域の方がおられ、施設の状況を知って頂く良い交流が出来たと思います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の前には必ず施設に来所頂き、施設見学や施設の形態様式や病状管理など家族の心配等を聴取し説明しています。まず1日からでも、体験入所と言う方法を取っており、納得した上で契約させて頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的にご家族様に対して、満足度調査を実施し、介護サービスに活かせるよう参考にしております。月1回高齢介護課より、ふれあい相談員さんが来てくださり、入居者様の状況等を見て下さったり、生の声も聞いて頂いております。 (外部評価) 家族が面会に来た時等に意見や要望を聞いたり、定期的にアンケートを実施し、直接言いづらいことを書いてもらったりしている。出された意見や要望は些細なことでも職員会で議題にし、みんなで話し合って改善している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会の時に全体の意見を聞き、日々の業務で簡潔に明確に業務が出来るように、業務改善シートの作成を行い、よりよいサービスが出来るように改善し、時部署の問題事項に関しては、在宅部門や法人内の管理者会議でも取り上げており、業務に反映させていると思います。</p> <p>(外部評価) 職員会で、職員は自由に意見が出すことができ、管理者もしっかり受け止めている。職員から出された意見は、必要に応じて管理者が出席する法人内の管理者会議に出すこともある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 定期的に、業務能力適正評価シートで自己評価をおこなっています。個人面談にて個々の不満を聞けるようにしており、資格取得や活発な各種委員会の会議の出席などの参加には資格手当を支給しています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) GH連絡協議会の研修や法人内の勉強会には積極的に参加し、サービスの質の向上に励んでいる。施設内では、月1回の職員会に職員全体が集まるので勉強会を開催している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 市内のGHの管理者と定期的に近況報告や情報交換を行う機会を作っており、今年度GH協議会を立ち上げました。GHだけでなく、通所系や特養施設サービスの研修も試みました。初心に戻り勉強し、質の向上につなげています。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居申し込みを受けてからの待機時期の段階から、半年に1度は自宅に管理者が電話し、家族から現在の状況等を確認する。可能であれば、今利用しているサービス施設に向いたり、交流の場があれば会話する事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込みを受けてからの待機時期の段階から、半年に1度は、自宅に管理者が電話する。その時に家族から再度入居の待機状況や入居の意思の確認を伺いすると共に、家族の不満や介護負担を聴取し関係が継続できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族はもちろんの事、ケアマネやMSWとの情報交換を行い、その背景にある問題を見極め、サービス利用に努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 同じ主婦の先輩・女性として嫁姑の様な存在で居られるように、洗濯や調理など、普段の家事や子育ての悩みなど日々、会話の中で関わり良い関係作りを心がけています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族との関係には、どうしても勝てません。面会の制限を行なうことなく、来所して頂き近況の報告や一緒に過ごせる時間を共有する機会をもっています。遠方から帰省された親類の方には、気軽に泊まれるよう準備しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 担当のケアマネの方や、利用していた通所の担当者も時々施設に訪問してくれる時があり、会話を楽しまれる事もある。以前住んでいた地域の方や近所の方の訪問があり会話やお茶の時間が持てている。法人内の異動や退職した職員も、時々顔を見せてくれます。 (外部評価) 隣接する同系列の施設にある六地藏にお参りに行ったり、その施設の主催で開催される盆踊りや、ケアハウスのお茶会に参加している。また、月1回同じ建物内にある託児所に行き、子どもとふれあい楽しい時間を過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 特に新規で利用してきた方との関係づくりは難しいため、本人が関心ある事を見出し、一緒に出来る簡単な体操や歌などレクリエーションに参加しやすいよう配慮しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 近隣施設に入居した場合は、面会に出向く時もある。家族にまでは、なかなかお会いできないのが現状です。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各フロアで月1回カンファレンスを行っており、個々の対して検討し話し合っている。毎日の関わりの中で、ふと本音を聞きだせる事もあったり、何気ない仕草から本人の意向等の把握に努力しています。 (外部評価) 利用者のしたいことや、思いを利用者本人や家族から聞き取りをしてプロフィールを作成している。状況や体調に応じて可能な限り、利用者の思いに沿った生活を本人のペースでもらえるよう、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんには、センター方式を参考に馴染みの物について聞いたり、ケアマネさんや利用していたサービス担当者から聞き取りを行い把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 行動の決定主体は、本人にある。個々に違う生活のスタイルを重視し残存能力を見極めながら支援している。不穏が強い時は、隣のフロアに協力をお願いし、過ごさせてもらう時もあります。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式を取り入れており、家族との情報交換に基づきアセスメントし、フロアー全員でモニタリングを施行しています。 利用者本位のケアプラン作成できるように、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、課題解決ととケアに取り組んでいます。 (外部評価) 月1回開催している職員会で介護計画の作成やモニタリングを行っている。担当が1人で作るのではなくみんなで作るようにしている。利用者や家族の思いも反映できるよう面会時に聞き取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の様子は、処遇用紙に記載し情報を共有している。 フロアーでは、それを基に評価し計画の見直しを行っています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 面会時間の制限をせず、いつでも家族と会える環境にしている。 家族が忙しい時は、協力病院の受診は職員が付き添い普段聞き取れない情報が聴取できたりします。 気分転換に利用者の状態を見ながら、外出や買い物に出かけたりしています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月2回、音楽療法を行ってくださっているボランティアの方が来てくださっています。 同敷地内に併設されている保育所との交流会を行う等、生きがいのある支援を継続しております。 近所の山へ、栗拾いや笛の子堀りをさせてもらうなど、地域の方にはお世話になっています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 基本的に母体病院であるが、歯科・眼科・耳鼻科等は 入居前の病院を本人や家族に選んでもらっており、場 合によっては、家族に受診の協力もお願いしている。	
			<p>(外部評価)</p> 母体病院が地域の中核的な病院であり、ホームを利用 する前から受診していた利用者が多い。病院受診は職 員が行うが、家族にも状況に応じて関わってもらふよ うにしている。歯科等の往診もあり、訪問看護との医 療連携も確立されており、適切な医療が受けられるよ うになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 施設内には准看護師を配置しており、健康管理・服薬 管理の援助を行っている。 医療連携にて、訪問看護が週5日訪問してくれてお り、個々の病状に関しては情報交換を行っているた め、主治医と連絡が密に取れている。急変時には、緊 急時のマニュアルにしたがって連絡体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院時に、本人の情報提供を行い施設での状況を詳し く伝えられるようにしています。 可能な限り、お見舞いしその都度状態を把握し、退院 に向けて、主治医や看護師と相談し、退院後の生活に 向けての家族カンファレンスも行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 入所前の早い段階から、重度化・終末期に関して は、家族に説明している。法人内での施設の受け入れ が可能であり、家族も希望している。 職員も全員で理解しています。	
			<p>(外部評価)</p> 母体が病院であるため、医療的な支援体制が整っており 利用者や家族も安心できる。看取りの指針も作成し ホームとしてできる事、できない事を家族にも事前に 伝えて状況に応じて話し合いを行っている。	利用者の高齢化が進み介護度も重度化しているため、 今後急変する可能性があることを考慮し、職員に対す る研修を今以上に濃密にし、利用者や家族が安心、安 楽に過ごせるよう対応を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 高齢者介護『緊急時対応マニュアル』を購入して、全職員が知識を学んでいる。 職員全員が緊急時の心肺蘇生やAEDの研修に参加し、一般救急研修を習得している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は昼間と夜間を想定し、年に2回実施しています。消防隊の方から、災害時の避難について指導の機会を持っています。 運営推進会議の委員の方の紹介で、地区の消防団にも施設を見学してもらいました。 災害時には協力して頂く様になっており、備蓄の準備もしています。 (外部評価) 年2回、運営推進会議のメンバーの協力を得ながら避難訓練を実施している。地区の消防団にも事業所内を見てもらったり、訓練の時には実際に放水してもらったりと協力体制が整っている。訓練後には反省会をし次回の訓練につながるよう取り組んでいる。	実際の災害の時にはどのような状態の利用者も避難しなくてはならないので、体調不良の利用者の代わりを職員がする等の工夫を凝らし、今以上に利用者の生命を守る訓練を続けて欲しい。また、職員に迅速かつ的確に緊急連絡が行き渡るよう連絡網を使用した訓練を行い、さらに万全の態勢を構築することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導時は、その人に合った誘導や声掛けやを心がけ、もし失敗してもさりげなく居室に誘導し、尊厳を損なわないように徹底している。 (外部評価) 利用者の呼び方については事前に利用者や家族に確認を行っている。職員は親しく利用者とは会話をしているが、節度を守ってなれ合いにならないよう配慮されている。同性介護を実施しており、特に入浴や排泄については細心の注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 水分補給やお茶時間に飲み物の好みを聞いたり外出の際にメニューの選択が出来るよう自己決定できる機会を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝の起床も個々に違うため、食事時間や食事の内容もその人に合った生活ペースに合わせてしている。 生活全体は、その日の状態をみながらレクリエーションの中に風船ベレーやハンドベル演奏など、利用者が楽しく過ごせる様要望に応じて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ボランティアや人との交流がある時には、入居者様の化粧や服装のおしゃれにも気を付けており、家族も衣服の購入には協力し支援してくれている。 本人が以前利用していた、美容院に職員がお連れしたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備が可能な方に食事の盛り付けや配膳なども職員と共に行っている。食器洗いも協力してもらっているようにしている。 お誕生日には、好きなお菓子や、ケーキをトッピングするなど一緒に作れる楽しみを持つるようにしている。 (外部評価) 母体病院の栄養士が栄養管理をしており、栄養バランスがとれている。水分補給の意味も含め、食事には必ず汁物を付けるようにしている。職員と利用者が協働で準備や後片付けを行っている。食事中、職員は介助の必要な利用者の横に座り、会話を楽しみながらさりげなく介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士さんが作成した献立が週1回届いており、高齢者向けにアレンジしたり、職員と利用者が相談し食事作りが行えている。 水分補給は、本人の好きな物を選択してもらい、2時間おきに補給してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事の前には、カテキンによる殺菌作用が出来るように緑茶でうがいを施行している。 自力で出来ない方には、その人のペースに合わせて職員が付き添い義歯の洗浄・歯ブラシやコップ等の消毒も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、何気ない声掛けにてその人に合ったトイレ誘導をしている。 「排泄チェック表」にて本人の排泄状況を職員が共有できている。	
			(外部評価) 必要な利用者に対しては、排泄量と共に食事の摂取量も合わせてチェックし、総合的に支援を行っている。また、トイレ誘導についても他の利用者に悟られないようにさりげなく声かけがされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の有無で、緊急事態に繋がる事も職員は理解できている。食材の工夫や水分摂取の把握、便秘防止体操や腹部のマッサージを取り入れている。 便秘が続いている場合は、GH特製ヨーグルトやこんにゃくゼリー・野菜ジュースなどで対応します。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 自宅に居た頃に使用していた、入浴剤を家族から預かって楽しみに入浴されている方もいます。 一日毎に入浴を行っていますが、その日の状態に合わせて、入浴可能かどうか決めております。 訪問看護に相談する事もあります。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本としているが、状況や希望に応じて毎日の入浴も可能にしている。入浴の苦手な利用者も声かけをしたり、時間を変えたり工夫をして楽しく入浴してもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない時は、歌謡曲やDVDにてコンサートなどを掛け、会話により眠れない事の不安を解消し支援しています。 精神的に不安な強い方は、畳の場所を利用し職員と一緒に添い寝し安心して眠れるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬剤情報をファイリングし、副作用用法など確認出来るようにしている。食事後の配薬や服用に関しては、リスクが無いように二人の職員でチェックするようにしている。また配薬チェック表にてサインを記載するようにしている。 残薬の確認は管理者が行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事作りが得意な方・準備をしてくれるなど役割を持ってきている。 施設外へ外出したり、近所へ六地藏参りに行くなど、精神的な安定が図れるよう本人の状態を見ながら気分転換の支援が出来ている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行き付けの美容院や買い物などの送迎は職員が行っている。隣のGHの方と一緒に茶道クラブに参加しお抹茶と和菓子を頂き、作法の指導などボランティアを通じて支援させてもらってます。 季節に応じた植物の観賞なども近所に外出できています。 (外部評価) 少しの時間でも状況を見ながら外に出るように職員は心がけ、同じ建物の1階にある託児所に子どもの様子を見に行ったり、近くのスーパーに買い物に行ったりしている。また、地域の方の竹林で筍取りをさせてもらったり、栗拾いをしたり季節を感じるような外出支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員同行の上、買い物の支援を行っているが、支払いの際は都度見守りながら支払いが出来、尊厳を大切に出来るよう支えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方に住んでいる家族から、個人の携帯電話を預かっており、いつでも連絡できるようにしており、家族も頻りに電話してくれ協力してくれます。 暑中見舞いや年賀状など職員からの文章に加え、本人からの言葉を一筆添え、お送りしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関の靴の脱ぎ履時には、転倒防止の為に椅子を準備しており安全に配慮している。 玄関ポーチには、植物の観賞や日光浴などの場所となっている。 車椅子での対応も可能な、広さになっています。</p> <p>(外部評価) リビングが広く、各所に安定感のあるいすが設置されており好みの場所で寛ぐことができる。窓が大きいので、明るく外の景色も一望できる。随所に手作りの飾りが華やかに飾られている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロア内のリビングに畳の空間を作っており、横に寝転がったり、冬にはコタツにみかんを置き会話の場所となっている。 夜間一人で寝る事が不安な方は、この畳の場所を利用し就寝される事もあります。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に使用していた、家具や仏壇・テレビなど馴染みの物を置き、好きな歌手や家族の写真などは精神的安定が図れるよう工夫している。 会話用のお人形を置いたりして、部屋のインテリアは家族と相談し決めており季節ごとに変化をもたせている。</p> <p>(外部評価) 居室も広く、ゆったりとした空間が確保されている。利用者はダンスや仏壇、思い出の品を自由に持ち込み、個性的な居室を職員と共に作り上げている。簡易ベッドを用意しているため、利用者の居室で家族が泊ることもできる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 残存能力を考慮し、起居が容易にし易いようにキッチンテーブルなどの高さなど本人の体系に合った物にしている。入所者様は、字が読めるので、トイレや洗面所の場所が矢印や案内板などで夜間でも安全に移動し易いように配慮している。</p>	